

妊娠期から育児期の 父親の子育て

酒井 彩子

女性が妊娠・出産・子育てを体験する中で、母親として、また妻として変化していく過程の一方で、男性は、これらの体験を通じて、父親として、また、夫として、どのように変わっていくのだろうか。本章では、第1子を持つことによる父親の発達的变化を、父親の年齢、妊娠期の準備性、さらに就業時間との関わりなどから検討していきたいと思う。

■年齢グループ別による父親の比較

父親となる年齢の違いは、父親としての意識や行動にどのような違いをもたらすであろうか。ここでは、妊娠期の父親を24歳以下、25歳～29歳、30歳～34歳、35歳以上の4つのグループに分け、それぞれの年齢グループ別に父親になる意識、準備性、出産後の育児へのかかわりなどの比較を行った。

1) 出産を決めた理由

まず、出産を決めた理由については、「年齢的によいタイミングと感じたため」「結婚して子どもを持つのは自然なことだから」が、24歳以下のグループでは低く、25歳～29歳と30歳～34歳のグループで高くなっており、35歳以上のグループでは低下している。一方、「年齢的にリミットを感じていたため」という理由は、30～34歳のグループでは11.5%が、35歳以上では49.5%が選択している。「子どもがいると生活が豊かになり楽しくなると思ったから」という理由を選択した割合は、24歳以下のグループが23.5%であるのに対し、それ以上の年齢のグループでは、60%近くの人を選択しており、特に35歳以上のグループでは63.4%の人が選択している。また「自分より配偶者のほうが子どもを欲しがっていたため」は、24歳以下のグループと35歳以上のグループで選択される割合が高くなり、「子どもは予定外だったができてしまったため」という理由については、24歳以下のグループでは23.5%が選択しているのに対し、年齢とともに選択率は下がり（25歳～29歳で10.9%、30歳～34歳で2.6%）、35歳以上のグループでは選択されていなかった（図4-1～6）。

2) 出産への期待と不安

出産への期待と不安感については、「おなかの赤ちゃんが生まれる日を待っている生活は楽しい」という肯定的な気持ちに対し、「あてはまる」と回答した父親の割合は、年齢が上がるにつれて低下し、24歳以下のグループでは70.6%の人が「あてはまる」と回答しているのに対し、35歳以上のグループでは58.1%となっている。さらに、35歳以上のグループでは、「どちらと

図4-1 年齢的に良いタイミングだと感じたため
(妊娠期夫・年齢別)

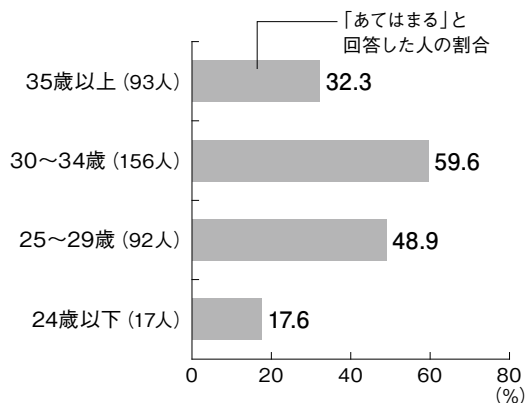


図4-2 結婚して子どもを持つのは自然なことだから
(妊娠期夫・年齢別)

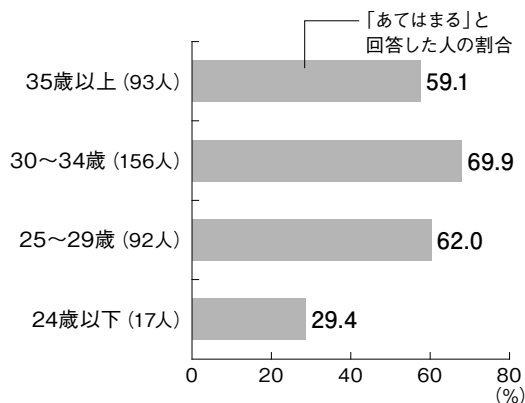


図4-3 年齢的にリミットを感じていたため
(妊娠期夫・年齢別)

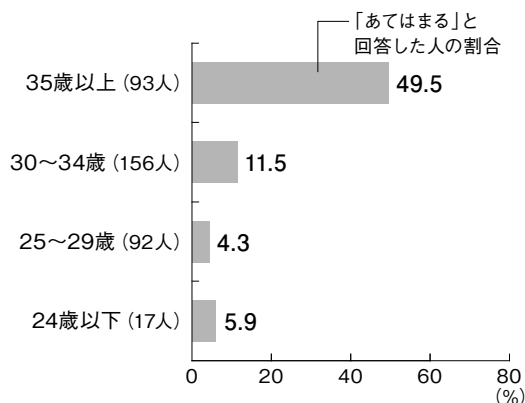


図4-4 子どもがいると生活が豊かになり楽しくなったから
(妊娠期夫・年齢別)

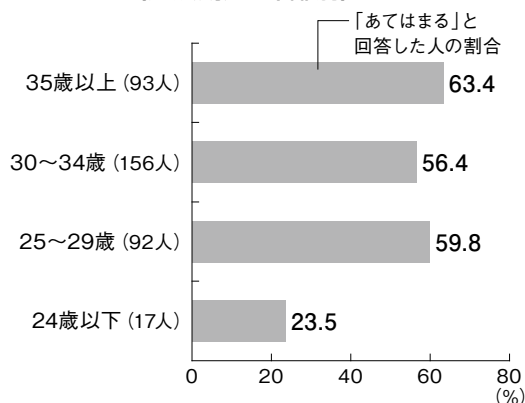


図4-5 自分よりも配偶者のほうが子どもを欲しがっていたため
(妊娠期夫・年齢別)

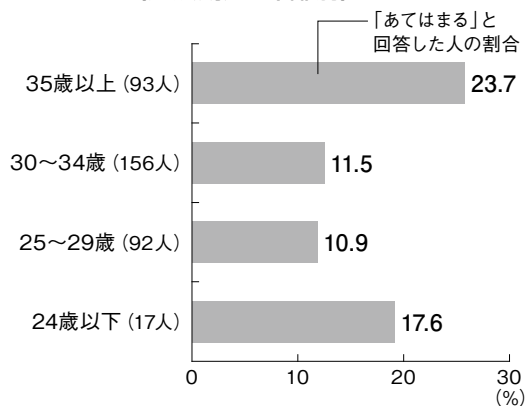
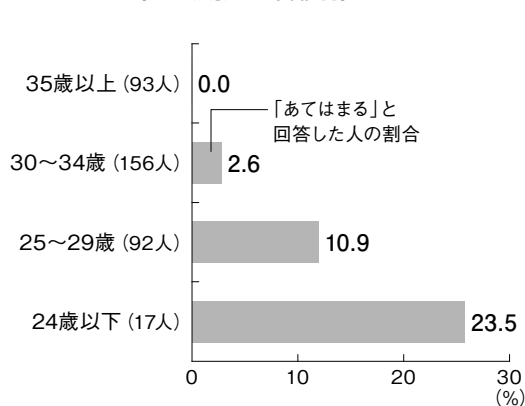


図4-6 子どもは予定外だったができてしまったため
(妊娠期夫・年齢別)



もいけない」と回答した人が19.4%と約5人に1人の割合になっており、より高い年齢グループの父親では出産を手放して喜ばない心情になっていることがうかがえる(図4-7)。同様に、「生まれてくる赤ちゃんのことを想像するとわくわくする」という気持ちについても、34歳以下のグループでは、おおよそ8割以上の人「あてはまる」と回答しているのに対し、35歳以上のグループでは60.2%にとどまっており、「ややあてはまる」が32.3%、「どちらともいえない」が7.5%となっている(図4-8)。出産後の子育てについて「子どもをどう育てるか考えるのが楽しい」は、24歳以下のグループの88.2%が「あてはまる」という回答を選択しているのに対し、選択率は年齢が上がるとともに低下し、35歳以上のグループでは選択率は40.9%と、24歳以下のグループの半分以下となっている。「ややあてはまる」を選択した父親も加えれば、34歳以下のグループでは80%以上の父親が楽しいと感じているようであるが、他方、35歳以上のグループでは24.7%の父親が「どちらともいえない」と回答しており、子育てを楽しみに出産を待つ気持ちは、年齢が上昇するとともに低下していると言えそうである(図4-9)。

一方、「父親になることに不安がある」という親役割に対する不安な気持ちは、24歳以下のグループでは17.6%、25～29歳のグループでは43.5%、30～34歳のグループでは37.9%、35歳以上のグループでは35.5%（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）の父親が感じており、父となることへの不安は25～29歳のグループが最も高く、24歳以下のグループが最も低くなっている(図4-10)。

3) 妊娠や出産準備に関するプログラムへの参加

行政主催のプログラムに参加したことがある父親の割合は、年齢グループが上がるにつれて高くなり、24歳以下のグループでは「参加したことがある」と回答した父親は17.6%であるが、35歳以上のグループでは47.3%の人が「参加したことがある」と答えている(図4-11)。

4) 出産への立ち会いの希望

出産への立ち会いについては、24歳以下と25～29歳のグループでは約7割の父親が立ち会いを希望しているのに対し（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）、30歳代以上の父親では立ち会いへの希望は5割台に留まっている(図4-12)。

5) 子育て環境：育児の情報源・子育ての相談相手

育児の情報源の利用について年齢グループによる差はあるだろうか。育児の情報源としてインターネットを利用する父親は多く、24歳以下のグループでは35.3%、25歳以上のグループでは約7割の父親が情報源として選択している。書籍雑誌については35歳以上のグループの半数以上が情報源として利用している一方、24歳以下のグループでの利用率は低く11.8%の人が選択しているに過ぎない。24歳以下グループでは、全般に利用する情報源の選択率は他のグループより低い(図4-13)。

子育ての相談相手については、配偶者以外では自分の親を相談相手とする父親が多く、24歳以下のグループでは47.1%、25～29歳のグループでは55.4%、30～34歳のグループでは47.4%の父親が「時々している」と答えている。35歳以上のグループでは、「時々している」という

図4-7 おなかの赤ちゃんが生まれる日を待っている生活は楽しい (妊娠期夫・年齢別)

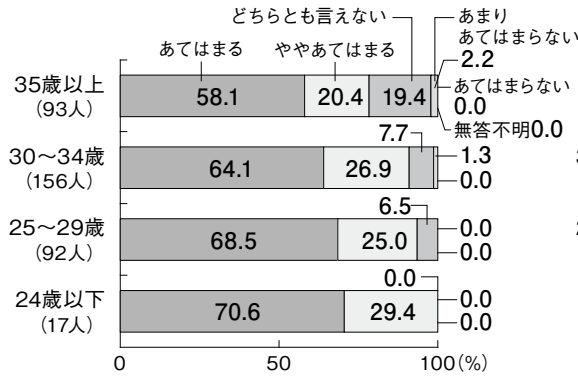


図4-8 生まれてくる赤ちゃんのことを想像すると、わくわくする (妊娠期夫・年齢別)

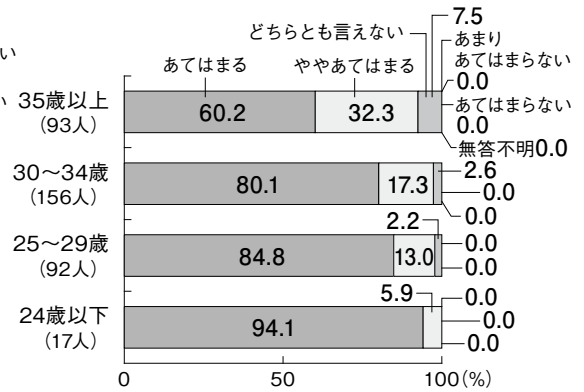


図4-9 子どもをどう育てるか考えるのが楽しい (妊娠期夫・年齢別)

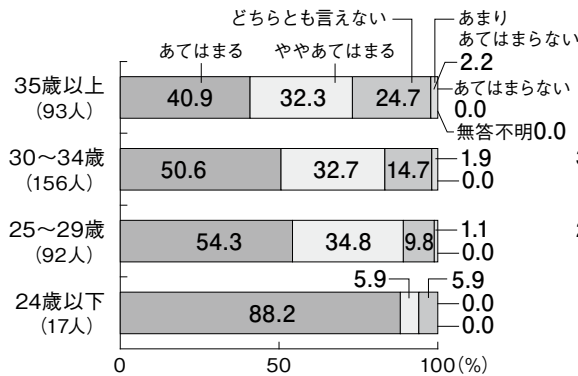


図4-10 父親になることに不安がある (妊娠期夫・年齢別)

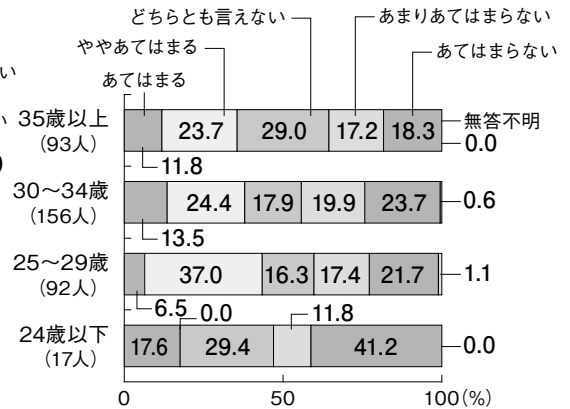


図4-11 行政主催のプログラムへの参加 (妊娠期夫・年齢別)

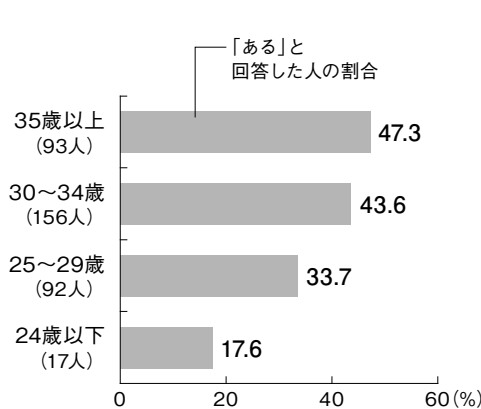
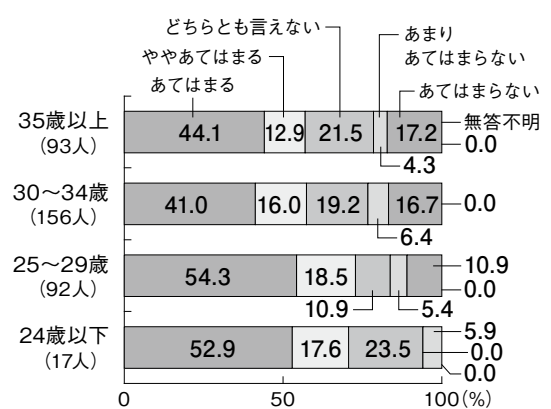


図4-12 出産への立ち会いの希望 (妊娠期夫・年齢別)



父親は39.8%に留まる一方で、23.7%の父親が相談を「したことはない」と回答している。この年齢グループでは、自らの親も高齢となっており、気軽に親に頼れない状況が想像される（図4-14）。配偶者の親に対しては、「時々している」父親がいずれのグループにおいても3割前後であるが、「したことがない」と回答している父親は24歳以下のグループと35歳以上のグループで高く、それぞれ35.3%、38.7%となっている（図4-15）。自分自身の友人知人に対しては、24歳以下グループで特に高く、76.5%の父親が「いつも～時々している」と答えている（図4-16）。

■ 出産への準備性・養育行動・父親としての成長感との関連性

ここでは、妊娠中から0歳児期にいたる縦断調査をもとに、出産への準備性とその後の育児へのかかわりとの関連性、さらに、育児へのかかわりが子育てへの自信（＝父親としての成長感）とどのように関連していくかについて見ていきたい。

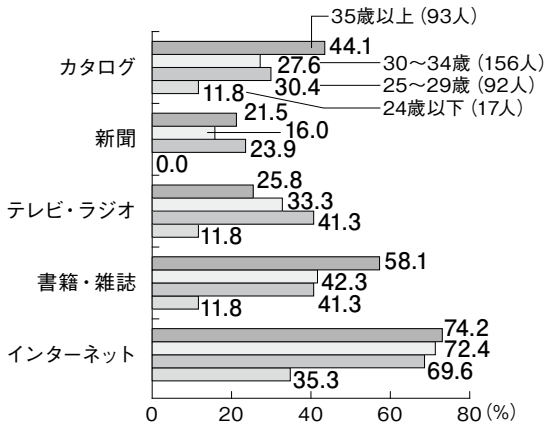
1) 出産への準備性と養育行動との関連性

妊娠期の父親の意識や準備行動は、0歳児期の養育行動とどのように関連するだろうか。まず、結婚の理由として「子どもが欲しかったから」をあげた父親のうち、「〇〇ちゃんを寝かしつける」ことを週3回以上する父親は36.2%で、結婚の理由として「子どもが欲しかったから」という理由をあげなかった父親の22.7%より13.5ポイント上回っている。さらに、結婚の理由としてこの項目をあげた父親の50.7%は「〇〇ちゃんがぐずったとき、落ち着かせる」ことを週3回以上すると回答しており、あげなかった父親より13.1ポイント上回っている。

同様に、出産を決めた理由として「自分の子どもが欲しかったため」を選択した父親の27.1%が「〇〇ちゃんを寝かしつける」ことを週3回以上すると回答しており、この理由を選択しなかった父親を14.3ポイント上回っている。一方、この理由を出産を決めた理由として選択しなかった父親の6割以上が「寝かしつける」ことを「ほとんどしない」と回答している（図4-17、図4-18）。これらの結果から、父親自身が子どもを欲しいと思う気持ちと出産後の養育行動、それも難易度の高いと思われる項目との関連性の高さが推測される。

次に、「育児書を読むなど、子育て情報を集めている」ことについて「しばしばある」と回答した父親のうち、「おむつ替え・トイレ」の世話を「ほとんど毎日する」と回答した父親は49.0%おり、「子育て情報を集めている」ことが「まったくない」と答えた父親の16.0%を33ポイント上回っていた。さらに、「育児書を読むなど、子育て情報を集めている」ことが「しばしばある」父親のうち、子どもとほとんど毎日遊ぶ父親は68.6%おり、「子育て情報を集めている」ことを「まったくしない」父親の40.0%を28.6ポイント上回っていた。また、病院主催のプログラムへの参加について、参加したことがあると回答した父親では、「〇〇ちゃんがぐずったとき、落ち着かせる」ことを週3回以上行くと答えた父親が47.5%であったのに対し、参加したことがない父親では36.1%であった（図4-19～21）。これらの結果からは、父親が自ら育児に関する情報を得て子育てスキルを学ぼうとする行動と0歳児期の我が子のケアの実践との関連性がうかがえる。

図4-13 育児の情報源
(妊娠期夫・年齢別)



注) 複数回答。

図4-14 子育ての相談相手：あなたの親
(妊娠期夫・年齢別)

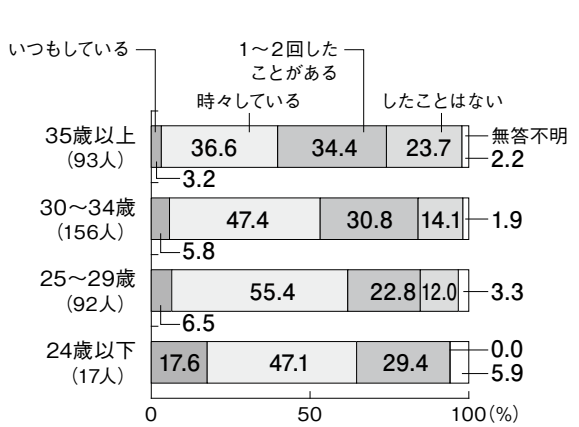


図4-15 子育ての相談相手：配偶者の親
(妊娠期夫・年齢別)

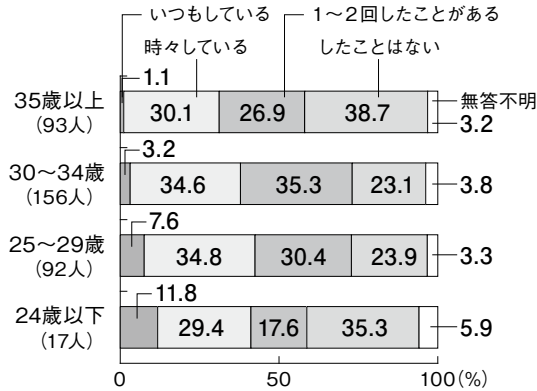


図4-16 子育ての相談相手：あなたの友人・知人
(妊娠期夫・年齢別)

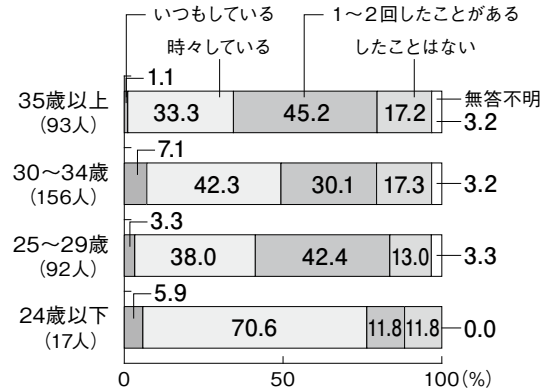


図4-17 結婚理由「子どもが欲しかったから」の選択 (妊娠期夫) と 養育頻度 (0歳児期夫)

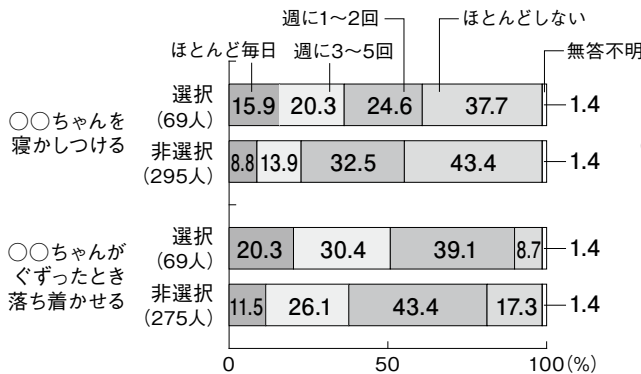
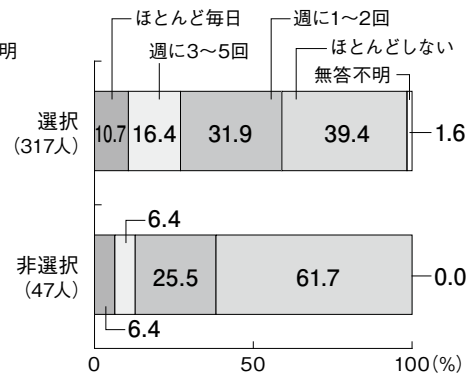


図4-18 出産理由「自分の子どもが欲しかったから」の選択 (妊娠期夫) と子どもの寝かしつけ (0歳児期夫)



赤ちゃんと身近に接したり世話をした体験は、父親としての我が子のケアにどのように関わっているだろうか？「子どものころから今までに赤ちゃんと身近に接したり世話をすることがあった」と回答した父親のうち、「〇〇ちゃんを寝かしつける」行動を週3回以上する父親の割合は32.8%で、機会がなかった父親の18.9%を上回っている。一方、赤ちゃんと接する機会がなかった父親の約半数は、寝かしつける世話を「ほとんどしない」と回答している。今日、実際に赤ちゃんと触れる機会は少なくなっているが、これらの結果は、赤ちゃんとふれあい体験が0歳児期の父親の養育行動につながる貴重な体験となっていることを示しているといえよう（図4-22）。

2) 養育行動と父親としての自信との関連性

「子育てに自信が持てるようになった」という項目について「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した父親は123人（33.8%）、「どちらともいえない」「ややあてはまらない」「あてはまらない」と回答した父親は231人（63.5%）で、およそ3分の1の父親は妊娠期から0歳児期に至る過程の中で父親としての自信が持てるようになったと回答している。では、このような父親としての自信は、どのように育まれていくのだろうか。その手がかりを得るために、前者を「自信あり群」、後者を「自信なし群」として、子どもとのかかわりについての比較を行った。

子どもとのかかわりの項目の中で、自信あり群と自信なし群の違いが最も顕著に見られたのは、「子どもと遊ぶ」ことであった。自信あり群の父親の64.2%が子どもと「ほとんど毎日遊ぶ」と回答しているのに対し、自信なし群の父親では、「ほとんど毎日遊ぶ」と回答しているのは47.2%にとどまり、他方、「週に1～2回遊ぶ」と回答した父親が、自信あり群では11.4%であったのに対し、自信なし群では27.2%と回答している。「おむつ替え・トイレ」、「ぐずったとき、落ち着かせる」においても、「ほとんど毎日する」＋「週に3～5回する」と回答している父親の割合は、自信あり群のほうが自信なし群より高く、その差はそれぞれ、15.6%、14.9%となっている。これらの結果から、父親としての自信は、育児にどのくらい多くかかわっているかということと関連していると言えるのではないだろうか（図4-23～26）。

■就労時間との関連性

わが国の男性の労働時間は国際比較の上から長いことが言われている。このような就労時間の長さは、男性の父親としての成長にどのようなかかわりを持つのだろうか。ここでは、0歳児期の父親の就労時間に焦点をあて、子育て期にある父親の就労時間と子どもとのかかわり、さらに、就労時間と父親としての自信との関連性について見ていきたい。

まず、父親の就労時間については、一日11時間以上働いている父親が121人（33.2%）、11時間未満の父親が217人（59.6%）であり、通勤時間も含めれば、ほぼ3人に1人の父親が一日の半分以上の時間を仕事に費やしていることがわかる。

では、就労時間の長さは、父親の子どもとのかかわりにどのように関連しているのだろうか。まず、養育態度について見てみよう。「〇〇ちゃんに温かく優しい声で話しかけている」という項目については、就労時間11時間以上群（以下、11時間以上群とする）で「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた父親は93.4%、就労時間11時間未満の群（以下、11時間未満群）では

図4-19 「育児書を読む」(妊娠期夫) × 「おむつ替え」(0歳児期夫)

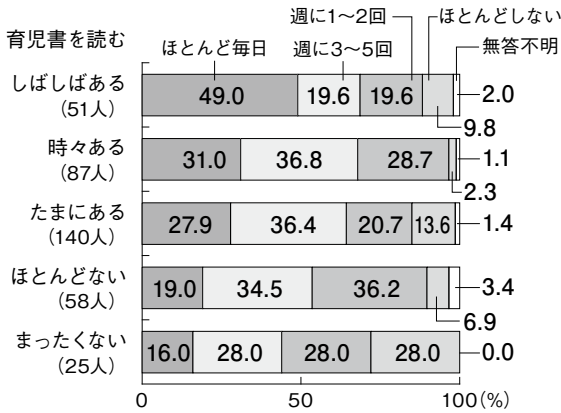


図4-20 「育児書を読む」(妊娠期夫) × 「子どもと遊ぶ」(0歳児期夫)

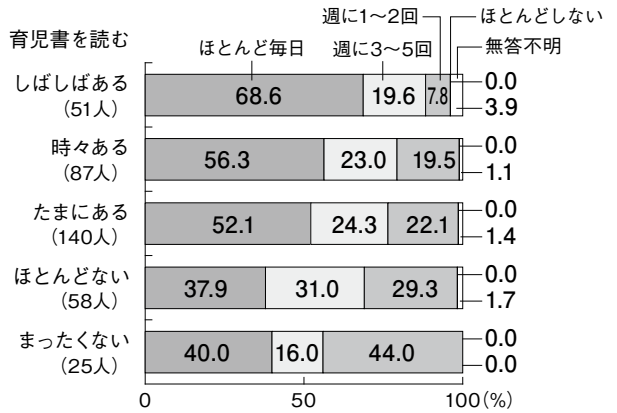


図4-21 「病院主催のプログラム」の参加の有無(妊娠期夫)と「落ち着かせる」(0歳児期夫)

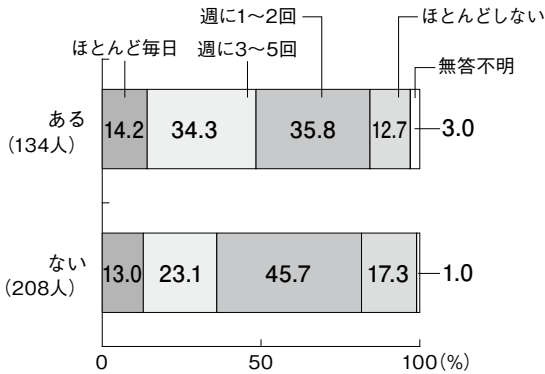


図4-22 「赤ちゃんに接する機会」の有無(妊娠期夫)と「寝かしつけ」(0歳児期夫)

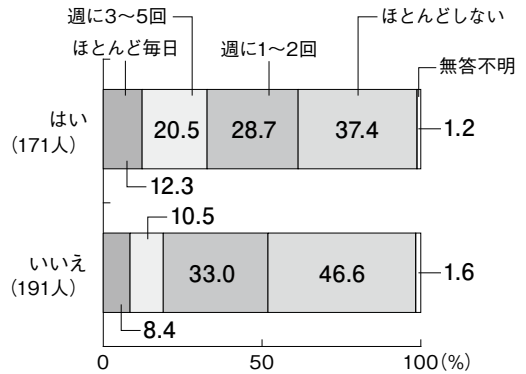


図4-23 子どものかかわり(〇〇ちゃんと遊ぶ)と親としての自信(0歳児期夫・自信あり・なし群別)

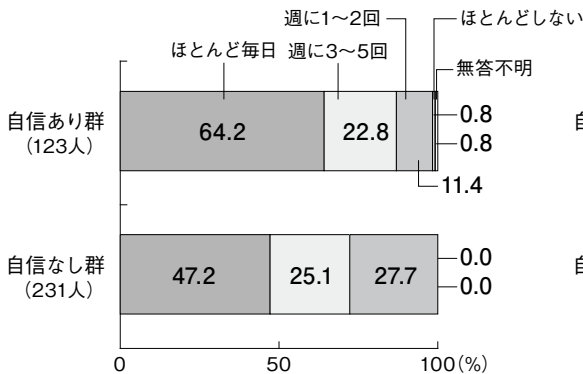
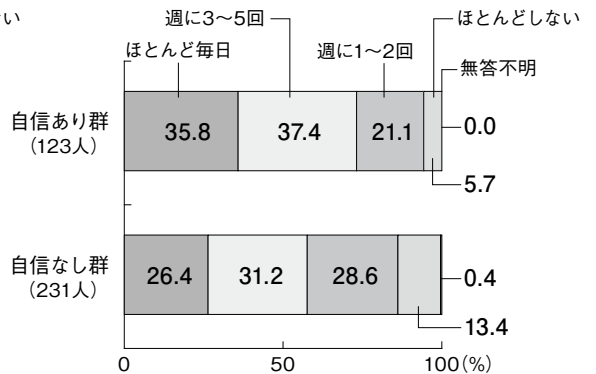


図4-24 子どものかかわり(〇〇ちゃんのおむつ替え・トイレ)と親としての自信(0歳児期夫・自信あり・なし群別)



92.7%となっており、いずれの群の父親も優しい態度でわが子に接しているようすがうかがえる。また、「〇〇ちゃんに「おはよう」「ありがとう」などのあいさつの声かけをしている」では、11時間未満群の95.4%、11時間以上群の89.2%が「あてはまる」＋「ややあてはまる」と回答している。「〇〇ちゃんといろいろなことを話すのを喜んでいる」という項目についても、11時間未満群の90.3%、11時間以上群の86.8%が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、いずれも就労時間の長い群の方がやや数値は下がるものの、両群間に大きな差はみられなかった。(図4-27)。

では、子どもとのかかわりについてはどうであろうか。まず、「〇〇ちゃんと遊ぶ」では、11時間未満群の父親の61.8%が「ほとんど毎日する」と回答しているのに対し、11時間以上群では34.7%だった。「〇〇ちゃんのおむつ替え・トイレ」については、11時間未満群では、36.9%の父親が「ほとんど毎日する」と回答しているのに対し、11時間以上群では「ほとんど毎日する」と回答した父親は16.5%しかおらず、「週に1～2回する」と答えた父親は37.2%、「ほとんどしない」と答えた父親は14.0%だった。また、「ぐずったとき、落ち着かせる」については、11時間未満群の父親では、「ほとんど毎日する」が17.1%、「週3～5回する」が29.5%であるのに対し、11時間以上群では、「ほとんど毎日する」は6.6%、「週3～5回する」が23.1%、「ほとんどしない」が23.1%で、ほぼ5人に1人の父親が、ぐずるわが子とほぼかかわっていないことがわかる(図4-28)。これらの結果から、就労時間の長さは、父親の養育態度とはあまり関連していないが、子どもとのかかわりとは関連が大きく、長時間の就労が子どもとのかかわりの少なさと関連しているようすがうかがえる。

次に、就労時間と父親としての自信との関連性はどのようであろうか。「子育てに自信を持てるようになった」との関連では、11時間未満群の父親の38.1%が自信あり(「あてはまる」＋「ややあてはまる」)と回答しているのに対し、11時間以上群では26.3%で、11時間未満群の父親より10ポイント以上低くなっている(図4-29)。

以上の結果からは、0歳児期の父親の就労時間の長さは、父親の実際の子どもとのかかわりの少なさと関連し、さらに、子育ての自信(＝父親としての成長感)の低さとも関連しているといえるのではないだろうか。

図4-25 子どもとのかかわり(〇〇ちゃんの寝かしつけ)と親としての自信(0歳児期夫・自信あり・なし群別)

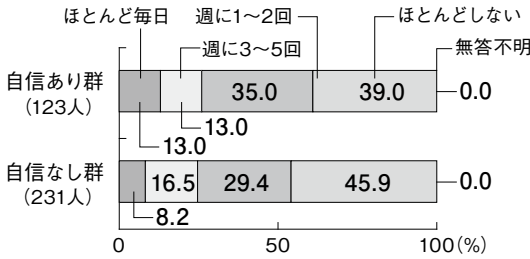


図4-26 子どもとのかかわり(ぐずったときの落ち着かせ)と親としての自信(0歳児期夫・自信あり・なし群別)

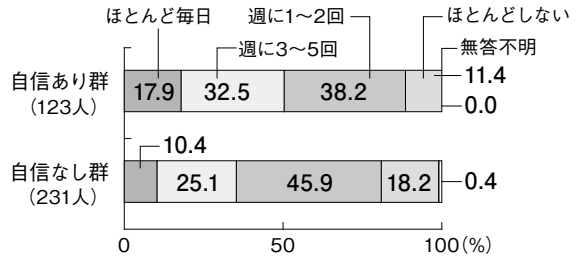


図4-27 養育態度と就労時間(0歳児期夫・就労時間別)

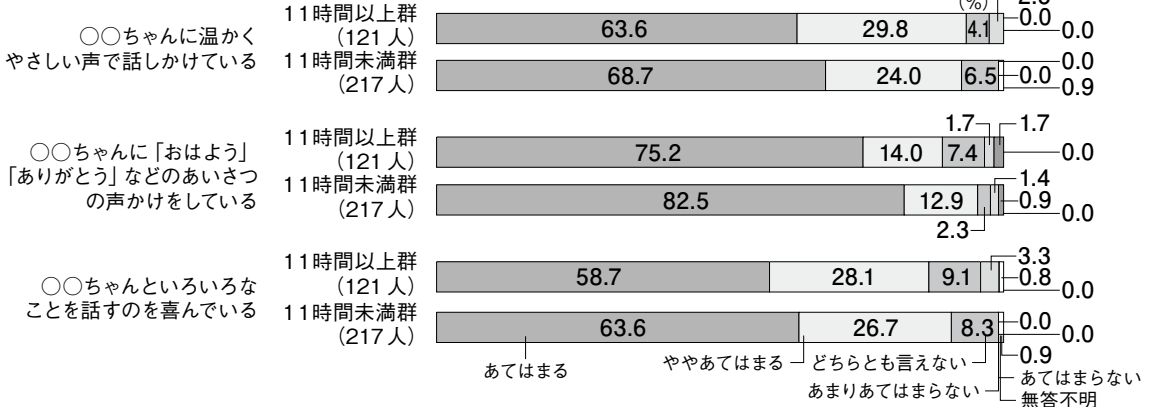


図4-28 養育頻度と就労時間(0歳児期夫・就労時間別)

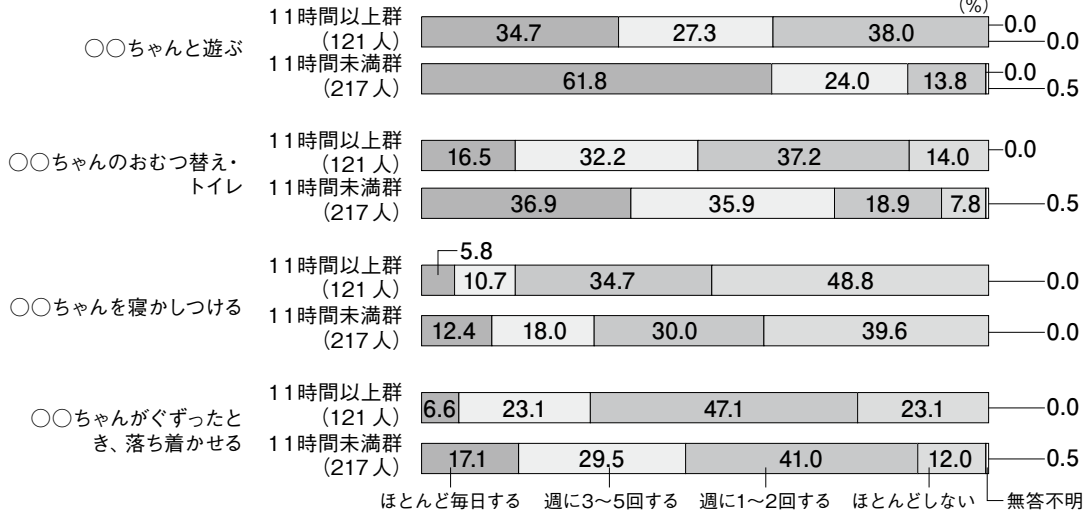


図4-29 子育ての自信と就労時間(0歳児期夫・就労時間別)

